

# 釧路市・釧路地区 教育経営研究会

- 1 趣 旨 学校運営上の諸課題について、全道情勢及び釧路地区の実情を交流し、道小・道中校長会の活動に反映させ、もって各学校の経営充実に資する。
- 2 主 催 釧路市小中学校校長会 釧路校長会
- 3 主 管 釧路市小中学校校長会
- 4 後 援 北海道教育庁釧路教育局 釧路市教育委員会 釧路管内町村教育委員会連絡協議会
- 5 研究主題 「釧路の風土に学び、心豊かにたくましく生きる力を培う学校経営の推進を目指して」
- 6 日 時 平成29年8月25日 (金) 13時～16時
- 7 会 場 釧路教育研究センター (釧路市千歳町3-16)
- 8 参加者 釧路市小中学校校長会 釧路校長会員他(100名)
- 9 日 程 13時00分 開会式 (祝辞 釧路教育局長・釧路管内町村教委連教育長部会長)  
13時20分 全体会 (情勢報告・説明・質疑～道小・道中の本部役員3名より)  
14時15分 分科会 (A・B分科会に別れての提言発表・研究協議)  
15時50分 閉会式
- 10 派遣役員 北海道小学校長会 会長 角野 誠 氏 (情勢報告, A分科会助言)  
北海道小学校長会情報部副部長 小笠原 康 友 氏 (情勢報告, A分科会助言)  
北海道中学校長会対策部幹事 鎌田 浩志 氏 (情勢報告, B分科会助言)

## 11 分科会

### (1) A分科会

<提言> 「校長のリーダーシップによる『校務改善』と『時間外勤務縮減』の取組について」  
弟子屈町立和琴小学校長 鳴海 厚

#### ①提言の概要

「教員の長時間労働」が注目を集め、「教員の働き方改革」が求められる中、管理職として、これらの問題にどう対応したらよいのか。

#### ア 教員の勤務時間と時間外勤務

- ・教職調整額～昭和41年当時の時間外勤務調査から算定(4%)、週2時間程度の時間外
- ・現在は、週50～60時間程度の時間外勤務

#### イ 国・道・弟子屈町各校の取組

- ・「次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善のためのタスクフォース」(国)
- ・勤務時間に関する制度改正「変形労働時間」「休憩時間の分割、個別付与」など(道)
- ・職員朝会の廃止、日課表の見直し、ペーパーレス等会議の持ち方改革など(弟子屈町)

#### ウ まとめ

- ・現状の学校現場では管理職の創意工夫や教職員の意識改革を上回るくらいに業務量が増え、教師の多忙感の解消や児童生徒と向き合う時間を確保することは非常に困難な状況である。
- ・管理職も含め、学校職員全体が働き方を見直すとともに、児童生徒と向き合う時間を確保し、心身ともに健康な状態で教育活動を推進していく学校づくりを進めていくことが必要である。
- ・「常識」にとらわれない、「大胆」な校務改善が必要になるのかもしれない。

#### ②協議

- ・教職員の意識改革が最大の課題
- ・中学校では、部活動の問題が解決しない限り限界がある。

- ・教職員には変えることへの不安がある、保護者、地域との考え方のギャップもある。

### ③派遣役員から

- ・校内と校外の問題を明確にする。スクールカウンセラーによる電話対応。
- ・学校のコンビニ化～朝から晩まで電話対応（業務時間を保障、閉庁日の活用）
- ・教員の勤務時間をPTAに伝える～意外に知らない、業務縮減の理解を得る。
- ・最大の解決策は教職員定数の改善。文化省は前向き、財務省が・・・。

## (2) B分科会

<提言> 「教育課程の編成・実施及び充実のための体制整備について」

標茶町立虹別中学校長

高橋 知毅

### ① 提言の概要

標茶町校長会の組織体制と学習指導要領改訂に向けた組織的な取組

ア 「チーム標茶」としての協働体制

イ 学習指導要領改訂に伴う体制整備の視点

視点1 新しい教育課程編成・充実に向けた管理体制・組織体制の整備

○小学校英語科に対応する授業時数確保など、教育課程の管理に関わること

○道徳の教科化など、移行期間や全面实施に向けた校内の組織体制に関わること

視点2 地域や他校・社会とつながる教育資源を活用した教育活動の構想

○地域の教育資源の活用など、社会に開かれた教育課程実現のための教育活動に関わること

○他校との交流を含めた学校種間の連携に関わること

視点3 教職員の資質能力の向上

○指導要領の理解や研修体制の工夫など、教職員の資質能力の向上に関わること

### ② 協議

ア 授業時数を生み出す他の工夫について

- ・行事と教科とのつながりを考慮し、組み合わせ、連動などの工夫が考えられる。
- ・運動会の総練習をなくした。そのためのデメリットはさほど大きくない。

イ 地域連携コーディネーターの配置における活動のポイントについて

- ・植樹を例に挙げ、今まで地域がお膳立てして終わりという流れが多かった。地域の主体性はあるが、子どもを育てるという発想に乏しい面がある。そこで、場や人とのつながりを考え、学校としてのねらいや取組を提案する形で行事を行った。

ウ 小中の連携について

- ・小中互いの学校を訪問する機会を多くするようにしている。
- ・28年度から教職員全員の研修を行っている。(中学校区全体会、グループ協議) 9年間での段階を踏まえた学習の取組方などについて協議し、その内容について4校長の連名で校区保護者へ発信している。

### ③ 派遣役員から

- ・空知地区での小学校英語科に向けた時数確保の現状について

総合的学習の時間の時数を使う動き 1時間を新たに増やす学校は1校のみ  
モジュール実施はない

- ・校長交代の時期 経験年数を考慮したグループ協議などの工夫